

平成 29 年度
日本商工会議所

第146回

簿記検定試験

3 級

【解答・解説】

この解答例は、当社で作成したものです。
解答中に記載してある配点は、当社で考えた予想配点です。

れっく LEC 東京リーガルマインド

著作権者 株式会社東京リーガルマインド
(C) 2017 TOKYO LEGAL MIND K.K., Printed in Japan
無断複製・無断転載等を禁じます。
有効期限 2017年6月11日/2017年11月18日



0 000212 172144

BL17214

第 146 回 解 答

第 1 問 (20 点)

	仕		訳	
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	仕 入	502,000	受 取 手 形 金 現 金	500,000 2,000
2	備品減価償却累計額 未 収 入 金 固 定 資 産 売 却 損	300,000 20,000 80,000	備 品	400,000
3	租 税 公 課	7,000	現 金	7,000
4	現 金 貸 倒 引 当 金	70,000 130,000	売 掛 金	200,000
5	旅 費 交 通 費 現 金	17,000 23,000	仮 払 金 前 受 金	25,000 15,000

仕訳 1 組につき各 4 点。

第 2 問 (10 点)

補助簿 日付	現金出納帳	当座預金 出 納 帳	商品有高帳	売掛金元帳 (得意先元帳)	買掛金元帳 (仕入先元帳)	仕 入 帳	売 上 帳	該当なし
5 日		○	○	○			○	
6 日		○						
16 日			○		○	○		
31 日①		○						
31 日②								○

各 2 点。

第 3 問 (30 点)

合計残高試算表

平成 29 年 5 月 31 日

借 方		勘 定 科 目	貸 方	
残 高	合 計		合 計	残 高
★ 638,500	2,650,000	現 金	2,011,500	
★ 2,998,000	7,540,000	当 座 預 金	4,542,000	
381,500	4,046,500	売 掛 金	3,665,000	
410,000	410,000	繰 越 商 品		
55,000	400,000	前 払 金	345,000	
300,000	300,000	備 品		
★	2,201,000	買 掛 金	2,533,000	332,000
★	415,000	前 受 金	500,000	85,000
	12,000	所 得 税 預 り 金	14,000	2,000
	1,000,000	借 入 金	2,000,000	1,000,000
		資 本 金	3,000,000	3,000,000
★	145,000	売 上	5,480,000	5,335,000
★ 3,409,000	3,490,000	仕 入	81,000	
1,000,000	1,000,000	給 料		
★ 375,000	375,000	支 払 家 賃		
127,000	127,000	水 道 光 熱 費		
★ 60,000	60,000	支 払 利 息		
9,754,000	24,171,500		24,171,500	9,754,000

売掛金明細票

	5月26日	5月31日
東京商店	¥ 430,000	¥ 196,500
千葉商店	350,000	185,000
	¥ 780,000	¥ 381,500

買掛金明細票

	5月26日	5月31日
茨城商店	¥ 340,000	¥ 180,000
栃木商店	258,000	152,000
	¥ 598,000	¥ 332,000

★の行につき3点、につき3点。

第 4 問 (10 点)

(ア)	300,000	(イ)	受取手形	(ウ)	売 上
(エ)	記入なし	(オ)	仮払金		

各 2 点。

第146回 解答

第5問 (30点)

貸借対照表

平成28年12月31日

(単位：円)

現金	(126,000)	支払手形	430,000
当座預金	(763,000)	買掛金	335,000
受取手形	(470,000)	(前受収益)	(2,000)
売掛金	(330,000)	資本金	1,500,000
(貸倒引当金)	(24,000)	当期純(利益)	(315,400)
商品	(285,000)		
消耗品	(5,000)		
貸付金	(300,000)		
前払費用	(90,000)		
未収収益	(2,400)		
備品	(480,000)		
(減価償却累計額)	(245,000)		
	(2,582,400)		(2,582,400)

損益計算書

平成28年1月1日から平成28年12月31日まで

(単位：円)

(売上原価)	(3,057,000)	売上高	4,160,000
給料	304,000	受取手数料	(9,000)
貸倒引当金繰入	(16,000)	受取利息	(2,400)
減価償却費	(65,000)		
支払家賃	(360,000)		
消耗品費	(38,000)		
水道光熱費	(14,000)		
雑(損)	(2,000)		
当期純(利益)	(315,400)		
	(4,171,400)		(4,171,400)

□につき3点。

【3級総評】

全体としては基本から標準レベルの問題でした。過去に出題している論点も多く、合格答練などでしっかりと準備していれば合格点を取ることは比較的容易な難易度でした。

【解説】

第 1 問

仕訳に関する問題です。勘定科目の指定があることに注意しましょう。

1. 商品仕入
 当店負担の引取費用は仕入原価に含めて処理をします。他店振出の手形の裏書譲渡は受取手形の減少で処理します。
2. 固定資産の売却
 固定資産の売却において代金を後日受け取ることとした場合には、未収入金を使用します。売却時の帳簿価額と売却代金との差額は固定資産売却損で処理します。
3. 収入印紙に関する処理
 収入印紙は租税公課として処理します。
4. 貸倒れの処理
 前期販売分の売掛金が貸倒れた場合は、貸倒引当金を充当します。
5. 旅費の精算および前受金の受け入れ
 従業員の旅費の金額が確定したときは、概算払い時に計上した仮払金を取り消し、確定額を旅費交通費とします。また、商品販売にかかる手付金を受け取ったときは前受金として処理します。

第 2 問

各取引について、記入される補助簿を答える問題です。ミスを防ぐために取引の仕訳を行うようにしましょう。また、商品売買取引は、基本的に商品有高帳へも記入します。

5 日	(借)	当 座 預 金	400,000	(貸)	売 上	800,000
		売 掛 金	400,000			

6 日	(借)	建 物	5,000,000	(貸)	仮 払 金	500,000
					当 座 預 金	4,500,000

16 日	(借)	買 掛 金	150,000	(貸)	仕 入	150,000
------	-----	-------	---------	-----	-----	---------

31 日 ①	(借)	当 座 預 金	20,000	(貸)	現 金 過 不 足	20,000
--------	-----	---------	--------	-----	-----------	--------

31 日 ②	(借)	貸 倒 引 当 金 繰 入	8,000	(貸)	貸 倒 引 当 金	8,000
--------	-----	---------------	-------	-----	-----------	-------

第146回 解説

第3問

合計残高試算表を作成する問題です。

基本的な解答手順としては、まず問題資料として与えられた取引を考え、次に借方合計および貸方合計を集計し、残高を算出します。

平成29年5月27日から31日までの諸取引

27日	(借)	仕入	60,000	(貸)	前払金	15,000
					買掛金(栃木)	45,000
	(借)	給料	200,000	(貸)	所得税預り金	2,000
					現金	198,000
28日	(借)	前受金	15,000	(貸)	売上	80,000
		売掛金(東京)	66,500		現金	1,500
	(借)	買掛金(栃木)	1,000	(貸)	仕入	1,000
29日	(借)	前受金	20,000	(貸)	売上	100,000
		売掛金(千葉)	80,000			
30日	(借)	買掛金(茨城)	200,000	(貸)	当座預金	350,000
		買掛金(栃木)	150,000			
	(借)	売上	5,000	(貸)	売掛金(千葉)	5,000
	(借)	支払家賃	75,000	(貸)	当座預金	75,000
	(借)	水道光熱費	27,000	(貸)	当座預金	27,000
	(借)	現金	150,000	(貸)	当座預金	150,000
31日	(借)	仕入	50,000	(貸)	前払金	10,000
					買掛金(茨城)	40,000
	(借)	当座預金	540,000	(貸)	売掛金(東京)	300,000
					売掛金(千葉)	240,000
	(借)	借入金	1,000,000	(貸)	当座預金	1,060,000
		支払利息	60,000			

第 4 問

伝票会計の問題です。各取引の仕訳は以下の通りです。

(1)

(借)	現	金	300,000	(貸)	売	上	400,000
	受	取	手	形			100,000

(2)

(借)	旅	費	交	通	費	4,000	(貸)	仮	払	金	4,000
-----	---	---	---	---	---	-------	-----	---	---	---	-------

第 5 問

貸借対照表および損益計算書の作成問題です。決算整理事項等にもとづいて決算整理仕訳を行い、これを勘定科目ごとに決算整理前残高に加減算して、各勘定の決算整理後残高を算定します。その後、勘定科目と表示科目の違いに注意しながら、決算整理後残高を損益計算書および貸借対照表に記入します。

決算整理事項等

1. 現金過不足

実際有高 ¥126,000 と帳簿残高 ¥128,000 との差額 ¥2,000 は原因不明のため雑損とします。

(借)	雑	損	2,000	(貸)	現	金	2,000
-----	---	---	-------	-----	---	---	-------

2. 仮受金の精算

仮受金を取消すとともに、売掛金を減少させます。

(借)	仮	受	金	56,000	(貸)	売	掛	金	56,000
-----	---	---	---	--------	-----	---	---	---	--------

3. 貸倒引当金の設定

貸倒引当金勘定の残高が貸倒見積額になるように不足分を繰入れます。仮受金の精算により売掛金が減少していることに注意が必要です。

(借)	貸	倒	引	当	金	繰	入	16,000	(貸)	貸	倒	引	当	金	16,000
-----	---	---	---	---	---	---	---	--------	-----	---	---	---	---	---	--------

受取手形：¥470,000

売掛金：¥386,000 - ¥56,000 = ¥330,000

貸倒見積額：(¥470,000 + ¥330,000) × 3% = ¥24,000

貸倒引当金繰入：¥24,000 - ¥8,000 = ¥16,000

4. 商品の決算整理

期首商品棚卸高を繰越商品勘定から仕入勘定へ振替えます。そして、期末商品棚卸高を仕入勘定から繰越商品勘定へ振替えます。これにより、仕入勘定の決算整理後残高は売上原価を表します。

(借)	仕	入	262,000	(貸)	繰	越	商	品	262,000
(借)	繰	越	商	品	285,000	(貸)	仕	入	285,000

第 146 回 解 説

5. 消耗品

消耗品未使用高を消耗品費勘定から消耗品勘定に振り替えます。

(借)	消 耗 品	5,000	(貸)	消 耗 品 費	5,000
-----	-------	-------	-----	---------	-------

6. 減価償却

定額法による1年分の減価償却費は「(取得原価－残存価額) ÷ 耐用年数」です。

(借)	減 価 償 却 費	65,000	(貸)	備品減価償却累計額	65,000
-----	-----------	--------	-----	-----------	--------

$$\text{新備品} : \text{¥}120,000 \div 6 \text{年} \times \frac{3\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}5,000$$

$$\text{その他の備品} : (\text{¥}480,000 - \text{¥}120,000) \div 6 \text{年} = \text{¥}60,000$$

$$\text{¥}5,000 + \text{¥}60,000 = \text{¥}65,000$$

7. 支払家賃の繰延べ

支払家賃のうち、翌期に対応する分を繰延べます。

(借)	前 払 家 賃	90,000	(貸)	支 払 家 賃	90,000
-----	---------	--------	-----	---------	--------

8. 貸付金の利息の見越し

翌期に受取る利息のうち、当期に対応する分を見越し計上します。

(借)	未 収 利 息	2,400	(貸)	受 取 利 息	2,400
-----	---------	-------	-----	---------	-------

$$\text{¥}300,000 \times 2.4\% \times \frac{4\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}2,400$$

9. 受取手数料の繰延べ

当期に受け取った手数料のうち、翌期に対応する分を繰延べます。

(借)	受 取 手 数 料	2,000	(貸)	前 受 手 数 料	2,000
-----	-----------	-------	-----	-----------	-------

※ 前払家賃・未収利息・前受手数料

貸借対照表において、費用の繰延べは前払費用、収益の見越しは未収収益、収益の繰延べは前受収益とそれぞれ記入します。